

平成30年10月5日

学校関係者評価委員の皆様

横浜市立星川小学校  
校長 小西 俊光

## 全国学力・学習状況調査の報告

4月に6年生が実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。この調査結果に表れている本校児童の学習状況とそれをふまえた今後の本校としての指導改善の視点について次のとおりご報告いたします。

今回の調査をふまえて児童一人ひとりの学力を上げていくことに引き続き取り組んでまいります。

### 《教科学習状況調査結果》

「平均正答率 (%)」

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
星川小	69	52	63	51	57
全国との差	-1.7	-2.7	-0.5	-0.5	-3.3
神奈川県	70	54	64	52	60
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

※国語と算数では、A問題（主として知識に関する問題）とB問題（主として活用に関する問題）に分かれています。

本校は、全教科を通じてほぼ全国平均をやや下回る結果となりました。中でも国語Aの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の正答率が全国平均より6～7ポイント下回っています。この結果は、本校6年生児童の読書習慣の実態にも表れており、生活の中で書かれた文章や言葉に触れる機会が少なくなっていることも一因と考えられます。一方、理科の実験の技能の正答率は全国平均より4ポイントほど高く、実際にやったり、見たりしたことについては理解が深まっている傾向が見られました。

子どもの解答状況から見えてきた成果や課題を今後の授業改善につなげていきたいと考えています。

#### 【国語】

- 漢字の知識と書き取りが正確にできるよう、定期的に漢字テストを行うと共に、日常的に学習した漢字を使うように指導する。
- 書かれた文章や言葉に親しみ、目的に応じた文章の書き方や表現の工夫に目を向けていけるように、学校司書と連携し、様々な種類の本に親しむ機会をつくる。

#### 【算数】

- 小数や分数の基本的な計算が確実にできるように、継続して家庭学習に取り組むことができるようにする。
- 一つの問題を多角的に捉えることができるよう、式や図を用いて考え方を表したり、自分とは違った考え方から理解を深めたりできるような活動を授業に多く取り入れる。

#### 【理科】

- 実験や観察の機会を増やすとともに、その中で様々な用語の理解を深められるようにする。

#### 【全教科】

- 友達と力を合わせて活動しようとする姿勢が育つよう、めあてのはっきりしたグループ活動を授業に進んで取り入れる。

## 《生活習慣・学習習慣（質問紙調査結果）》

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等について児童一人ひとりが全62項目に渡って主に、(1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば当てはまらない 4. 当てはまらない 5. その他)の5段階で回答した結果の1と2の数値の合計を、「学校生活」「自分自身」「地域」「家庭生活」の視点からまとめました。(%)

質問事項	星川小平均	全国平均
学校のきまりを守っている。	79.7	89.5
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	87.1	81.7
いじめはどんな理由があってもいけないことだ。	100	96.8
自分にはよいところがある。	90.7	84.0
先生は、あなたのよいところを認めてくれている。	94.4	85.3
将来の夢や目標を持っている。	79.7	85.1
今住んでいる地域の行事に参加している。	79.6	62.7
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。	38.9	49.9
地域社会でボランティア活動に参加したことがある。	50	62.6
家の人（兄弟姉妹除く）と学校での出来事について話している。	77.8	80.5
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	55.5	67.6
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。	27.8	62.6
学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日30分以上読書をしている。（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）	33.4	41.1
学校の授業時間以外に、普段（月～金）1日に60分以上勉強している。（学習塾や家庭教師も含む）	51.8	66.2

特に「自分にはよいところがあると思う。」「よいところを認められている。」などといった『自尊感情』と言われる観点において、全国平均と比べ大幅に高い数値となりました。近年、全国的に課題となっているこの観点において、高い数値が出ているのは、友達と協力して一つの目標を達成する楽しさや、保護者や地域の方々に認められる喜びを経験できていることが要因だと考えられます。「学級の友達との意見交流の価値」の項目においても数値が高く、子どもたち同士の認め合いの気持ちが育ってきているのが感じられます。また、お互いの「地域への行事の参加」の観点から見ても、多くの目で子どもたちの成長が見守られていることが分かります。今後はさらに視野を広げ、自分も学校や地域といった大きなまとまりの中の一員であることを自覚し、自分たちにもできることを考えたり、地域の方々に感謝の気持ちをもって接することができるよう学校、家庭、地域と連携して育てていきたいと考えています。

今回の結果から、改善点や見直しが必要な点も見えてきました。まず全国的にも携帯電話やスマートフォンを所持する児童も急激に増加しており、それに伴いトラブルも急増しています。また、「放課後での過ごし方」「休日の過ごし方」についての最も多い回答が「ゲームやインターネット、動画の視聴（TVも含む）」となりました。本校も例外でなく、情報モラル教育の充実を図っていく必要があります。また本校では、「学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日30分以上読書をしている。（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）」「学校の授業時間以外に、普段（月～金）1日に60分以上勉強している。（学習塾や家庭教師も含む）」の回答が大幅に全国平均を下回っています。情報機器の使用時間の増加とともに、読書や学習、家庭や地域とのコミュニケーションの時間が減ってきてしまうのも現状です。大きく早い時代の変化の中で情報を安全に、効果的に活用していくことは必須です。それとともに、自分から周りの人たちとのコミュニケーションを深めていくことができるように、学校でも指導を工夫していきたいと考えています。ご家庭でもご協力とご理解の程よろしくお願い致します。